

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

地域で守り、未来に繋げる自然豊かな川づくり

○団体名 豊沢川^{とよさわがわ}漁業協同組合（代表理事組合長 佐藤^{さとう} 寛治^{かんじ}）

○所在地 岩手県^{いはなまきし}花巻市

○むらづくりの背景・経緯

花巻市を流れる豊沢川は、アユ、ヤマメ、イワナ、サクラマス、ウナギなどの内水面水産資源が豊かな河川である。

豊沢川漁業協同組合は、昭和26年に設置され、豊沢川流域を対象に内水面水産資源の保護培養、北上川水系のサケ資源の増殖等を現在まで取り組んできている。

かつて、豊沢川の内水面の水産資源は、地域住民にとって生活の糧であったが、近年の生活様式の多様化等を背景に、河川と地域住民とのつながりが薄れてきている中で、本組合が中心となって各種取組を進めてきている。

○むらづくりの内容

（１）漁業生産面

内水面水産資源の保護に当たって、全国的な問題となっているカワウによる川魚の食害対策として、花巻市や地元猟友会と連携して、アユ等を食害するカワウの駆除や追い払いの取り組みを実施している。

また、サケやサクラマスなど、内水面水産資源の持続的な利用に向けた取組として、①「北上川鮭鱒増殖協会」との連携により、ふ化放流事業を実施し、サケの増殖を進めてきたほか、②「岩手県内水面水産技術センター」との連携により、本県固有のサクラマス資源の保全のための調査を行っている。

（２）生活・環境整備面

「豊沢川の環境を守る会」を本組合が中心となって平成28年に設立し、企業や土地改良区等と共同して「豊沢川クリーン作戦」として地域住民と連携して、清掃活動等による河川環境の保全に取り組んでいる。

また、将来にわたって河川に親しむ人間性の育成を目指して、地域における教育活動の一環として、花巻市内の小中学校への河川学習会の開催、河川生物調査や放流会を通じて、子供たちへ学習機会の提供や理解・愛着を醸成することに貢献している。



組合スタッフ等